

栃木県健康増進課様  
有識者会議委員様

「栃木県における放射線による健康影響に関するシンポジウム」への質問・提言

那須希望の砦  
代表 竹原亜生

去る1月26日黒磯文化会館で行われた「栃木県における放射線による健康影響に関するシンポジウム」に参加しましたが、質疑の時間がなく、疑問点が解決できませんでしたので、書面にて下記の質問・提言をさせていただきます。  
県および有識者会議の委員の回答がいただけるよう、お願いいたします。

#### 記

- 1・有識者会議が、「健康影響が懸念される被ばく状態にないとし、健康調査等は必要ない」と判断しているが、「健康調査等は必要ない」としたことに異論があります。
  - (1) 健康調査は、現在の健康影響を調べるために必要であり、また将来起こりうる健康被害基礎データとなるため今調査をしておく必要があります。
  - (2) 健康被害の有無がわからないで不安に思っている人の不安を解消するためにも必要であります。  
お金がかかる、悪い結果が出て心配するなどは、健康調査不要の理由になりません。
  
2. 「健康影響が懸念される被ばく状態にない」としたことに異論があります。
  - (1) 内部被ばくに関しては、WBC、尿検査などで健康影響が懸念される被ばく状態にないと言っているが、ヨウ素131は当然評価できていないし、測定法の精度にも問題があり、健康影響が懸念される内部被ばく状態にないとは判断することはできません。  
また、土埃による内部被ばくの影響を考慮していない。表土（表面を覆っている土）が10,000Bq/kg以上のCsで汚染されている状況も把握していません。  
現在の土埃による内部被ばくは、食品による内部被ばくと同じかむしろ高い可能性がある。土埃対策の提言もされていません。
  - (2) 外部被ばくに関しては、ガラスバッチ、空間線量などで健康影響が懸念される外部被ばく状態にないと言っているが、事故当初あったヨウ素131の影響は

評価できていないし、ガラスバッチ測定法の精度にも問題があり、健康影響が懸念される被ばく状態にないと判断することはできません。

また、モニタリングポストはコンクリート、アスファルトや砂利の上にあります。コンクリート、アスファルトや砂利の上の空間線量値に比べ、周辺の草地や土の上の空間線量値は、1.5倍程度に高くなります。

外部被ばく評価にモニタリングポストの値を使っており、過小評価となっています。

3. 偏った情報で健康影響を判断することに異論があります。

今回のシンポジウムでWHO、UNSCEARの報告書の紹介があったが、チェルノブイリ原発事故ベラルーシ政府報告書やウクライナ政府報告書（チェルノブイリ事故から25年）などの紹介がされていない。いろいろな観点から健康影響について判断すべきであり、この二つの報告書についても合わせて評価した上で紹介していただきたい。

4. シンポジウムの運営について、問題がありました。

- (1) シンポジウムの広報不足のため出席者が少なく（特に若いお母さん方）、住民にわかるように事前の広報をはかってもらいたい。
- (2) 質疑時間が少ない。事前質問した内容にも答えていない。十分質疑できる時間を取るようして下さい。
- (3) 今回の「震災に伴う子どもの肥満についての紹介」は、結論として震災と関係がないことでもあり、シンポジウムで講演する意味はなく、時間つぶしでしかなかったと思います。

本質問・提言に対し、県・有識者会議委員の方々の回答を重ねてお願いいたします。

また、健康影響は重要な問題であるため、これで幕引きすることなく、シンポジウムなど市・町民と有識者会議が討議できる場を設けていただくことをお願いいたします。

以上